

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17030

建築物名称	プラウド元住吉スクエア
建築主	野村不動産株式会社 住宅事業本部 事業推進三部長 足立 総一郎
建築物の所在地	川崎市中原区木月大町83番
設計者氏名、建築士事務所名	柏木 紳二郎 木内建設株式会社一級建築士東京事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,284.54m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了年月	平成31年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

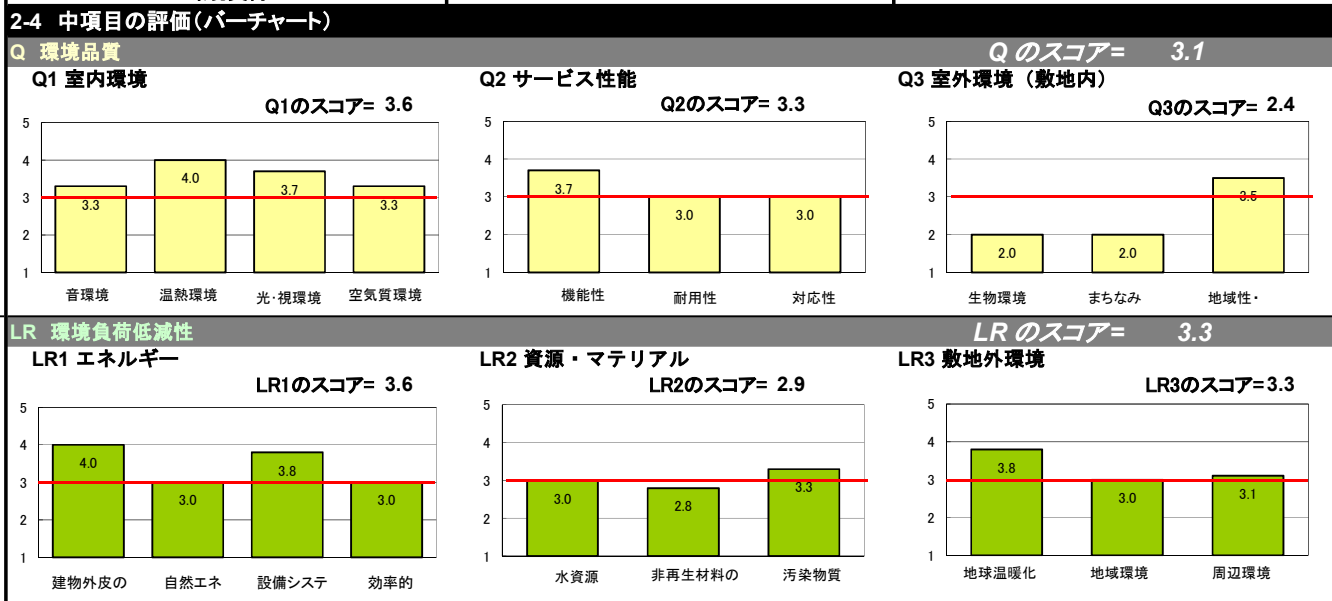
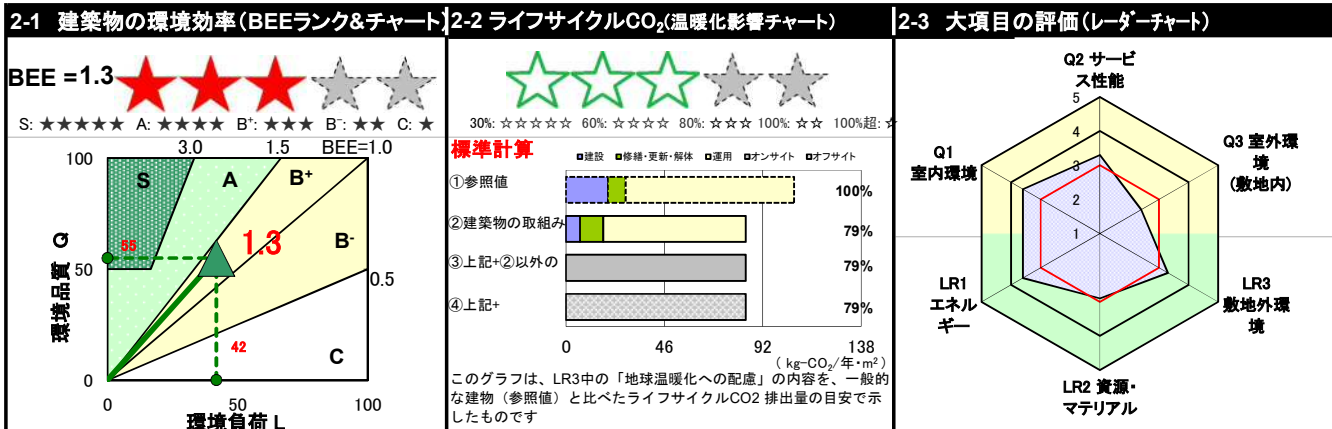
CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ブラウド元住吉スクエア	階数	地上5F
建設地	川崎市中原区木月大町83番	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	119人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 竣工	評価の実施日	2017年9月13日
敷地面積	1,337㎡	作成者	木内建設株式会社一級建築士東京事務所
建築面積	798㎡	確認日	2017年9月14日
延床面積	3,285㎡	確認者	木内建設株式会社一級建築士東京事務所



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している		
2 まちなみ・景観への配慮	植栽により良好な景観を形成している	2.0/4.3	2.4
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	建築物緑化を行っている	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.2
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	品確法5-1断熱等性能等級4		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	昼光利用設備なし	4.9/6.3	3.9
3.2 3.2.1 昼光制御	住居部:カーテン、庇にて制御		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上	1.2/2.3	2.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	品確法5-1断熱等性能等級4		
2 自然エネルギーの利用	採光通風配慮なし	3.6/5.0	3.6
3 設備システムの高効率化	BEI≤0.92		
4 効率的運用	取組なし		
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	雨水利用等なし		
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上が容易に分別可能、内装材と設備の錯綜なし	2.8/4.7	2.9
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ODP=0、GWP=3以下		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	建築物緑化を行っている	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	B:給水・排水-硬質塩化ビニル管、A:通気管-耐火二層管、Eなし	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	雨水利用等なし		
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上が容易に分別可能、内装材と設備の錯綜なし	2.3/4.0	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐車条例適合	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上	1.2/2.3	2.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	品確法5-1断熱等性能等級4		
2 自然エネルギーの利用	採光通風配慮なし	3.6/5.0	3.6
3 設備システムの高効率化	BEI≤0.92		
4 効率的運用	取組なし		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	建築物緑化を行っている	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	品確法3劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	B:給水・排水-硬質塩化ビニル管、A:通気管-耐火二層管、Eなし		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材なし	0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	品確法5-1断熱等性能等級4		
2 自然エネルギーの利用	採光通風配慮なし	3.6/5.0	3.6
3 設備システムの高効率化	BEI≤0.92		
4 効率的運用	取組なし		

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.3	
1 機能性					3.4	0.40	3.8	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.57	5.0	0.60	
1	広さ・収納性				-	-	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応			Gbitクラスのブロードバンド設備を整備	-	-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					-	-	2.0	0.40	
1	広さ感・景観				-	-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3	内装計画				-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理					4.0	0.43	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			防汚性の高い仕上げ、水清掃可、維持管理が異なる床材なし、水切り設置、防錆対策あり	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保			倉庫あり、水栓排水設備あり、ゴミ置場あり、各階に作業用電源あり、丸環あり、トラブルMBIにより維持管理が可能	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.3	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R		品確法3劣化対策等級3	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			2.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		B:給水・排水-硬質塩化ビニル管、A:通気管-耐火二層管、Eなし	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			通信手段の多様化、精密機器の地下空間設置なし、CATV設置あり	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり			階高2.9m以上	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				G W H	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G W H	4.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性										3.3	
LR1 エネルギー										3.6	
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	住居部:品確法5-1断熱等性能等級4		4.0	0.20	-	-	4.0	
2 自然エネルギー利用	W		H			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化	W		H	[BE][BEIm] = 0.92		3.8	0.50	-	-	3.8	
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価						-	-	-	-		
4.1	W		H	モニタリング		3.0	-	-	-		
4.2	W		H	運用管理体制		3.0	-	-	-		
集合住宅の評価						3.0	1.00	-	-		
4.1	W		H	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	W		H	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル										2.9	
1 水資源保護	W	R				3.0	0.20	-	-	3.0	
1.1				節水		3.0	0.40	-	-		
1.2				雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-		
1				雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-		
2				雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減						2.8	0.60	-	-	2.8	
2.1	W	R		材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-		
2.2	W	R		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-		
2.3	W	R		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-		
2.4	W	R		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-		
2.5	W	R		持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-		
2.6	W	R		部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.3	0.20	-	-	3.3	
3.1				有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-		
3.2				フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-		
1	W			消火剤		-	-	-	-		
2	W			発泡剤(断熱材等)		4.0	0.50	-	-		
3	W			冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境										3.3	
1 地球温暖化への配慮	W			LCCO2が一般的な建物と同等		3.8	0.33	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮						3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1				大気汚染防止		3.0	0.25	-	-		
2.2	G	W	H	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-		
2.3				地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-		
1			R	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2			R	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3			R	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
4			R	廃棄物処理負荷抑制		4.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮						3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1				騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-		
1				騒音		3.0	1.00	-	-		
2				振動		-	-	-	-		
3				悪臭		-	-	-	-		
3.2				風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-		
1				風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2				砂塵の抑制		3.0	-	-	-		
3				日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3				光害の抑制		3.7	0.20	-	-		
1				屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-		
2				星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

17030

プラウド元住吉スクエア

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に
基づいています。